

CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver.  
ワンピシA 九州新センター

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年追補

■評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010bpi&bei(v

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>			0.40					<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>		3.0	0.15					3.0
1.1 騒音		3.0	0.40					
1 室内騒音レベル		3.0	1.00					
1.2 遮音		3.0	0.40					
1 開口部遮音性能		3.0	0.60					
2 界壁遮音性能		3.0	0.40					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音		3.0	0.20					
<b>2 温熱環境</b>		2.6	0.35					2.6
2.1 室温制御		3.0	0.50					
1 室温		3.0	0.38					
3 外皮性能		3.0	0.25					
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38					
2.2 湿度制御		1.0	0.20					
2.3 空調方式		3.0	0.30					
<b>3 光・視環境</b>		3.3	0.25					3.3
3.1 昼光利用		4.2	0.30					
1 昼光率	4.5% 別添資料参照	5.0	0.60					
2 方位別開口		3.0	0.40					
3 昼光利用設備		3.0	0.30					
3.2 グレア対策		3.0	1.00					
2 昼光制御		3.0	0.15					
3.3 照度		3.0	0.25					
3.4 照明制御		3.0	0.25					
<b>4 空気質環境</b>		3.0	0.25					3.0
4.1 発生源対策		3.0	0.50					
1 化学汚染物質		3.0	1.00					
4.2 換気		3.0	0.30					
1 換気量		3.0	0.33					
2 自然換気性能		3.0	0.33					
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33					
4.3 運用管理		3.0	0.20					
1 CO <sub>2</sub> の監視		1.0	0.50					
2 喫煙の制御	建物全体が禁煙	5.0	0.50					
<b>Q2 サービス性能</b>			0.30					<b>2.9</b>
<b>1 機能性</b>		2.5	0.40					2.5
1.1 機能性・使いやすさ		1.6	0.40					
1 広さ・収納性		3.0	0.33					
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.33					
3 バリアフリー計画		1.0	0.33					
1.2 心理性・快適性		2.6	0.30					
1 広さ感・景観	執務室・会議室等の天井高さ 2.7m	4.0	0.33					
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33					
3 内装計画		1.0	0.33					
1.3 維持管理		3.5	0.30					
1 維持管理に配慮した設計	執務スペース⇔書庫・保存庫で床仕上げを区分	4.0	0.50					
2 維持管理機能の確保		3.0	0.50					
<b>2 耐用性・信頼性</b>		2.8	0.31					2.8
2.1 耐震・免震		3.0	0.48					
1 耐震性		3.0	0.80					
2 免震・制振性能		3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		2.7	0.33					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15					
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23					

<b>2.4 信頼性</b>			<b>2.8</b>	0.19		-	
1	空調・換気設備		1.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
3	電気設備	書庫・保管庫内 ラック露出配線	4.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20		-	
<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.5</b>	0.29		-	<b>3.5</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.31		-	
1	階高のゆとり	階高3.9m、執務室・会議室等の天井高さ 2.7m	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.10	4.0	0.40		-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.31		-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.1</b>	0.38		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性	床下ビット配管	4.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22		-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30		-	<b>2.0</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30		-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>2.0</b>	0.40		-	<b>2.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.0</b>	0.30		-	<b>2.0</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		<b>2.0</b>	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		<b>2.0</b>	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-		-	<b>3.7</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40		-	<b>4.2</b>
<b>1 建物の熱負荷抑制</b>		屋根のダブル折板、壁のボード内貼による断熱性確保	<b>5.0</b>	0.30		-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	<b>3.0</b>
2.1	自然エネルギーの直接利用		<b>3.0</b>	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		<b>3.0</b>	0.50		-	
<b>3 設備システムの高効率化</b>		空調空間が限定されることによる高効率化	<b>5.0</b>	0.30		-	<b>5.0</b>
集合住宅以外の評価 (ERRによる評価)		ERR換算値=35.8%	5.0			-	
集合住宅の評価						-	
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	<b>3.0</b>
4.1	モニタリング		<b>3.0</b>	0.50		-	
4.2	運用管理体制		<b>3.0</b>	0.50		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30		-	<b>3.3</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.15		-	<b>3.4</b>
1.1	節水	節水型便器の採用	<b>4.0</b>	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		<b>3.0</b>	0.67		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		<b>3.0</b>	0.33		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.3</b>	0.63		-	<b>3.3</b>
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	高炉セメント(コンクリート):基礎躯体	5.0	0.20		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上の分離可能性 内装と設備の分離可能性	5.0	0.24		-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.22		-	<b>3.3</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用		内装材☆☆☆☆を採用	<b>4.0</b>	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.68		-	
1	消火剤	電算室2に窒素ガス消火	<b>4.0</b>	0.33		-	
2	発泡剤(断熱材等)		<b>2.0</b>	0.33		-	
3	冷媒		<b>3.0</b>	0.33		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30		-	<b>3.6</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		常温保管書庫が大半を占めることによる、小CO2排出量	<b>5.0</b>	0.33		-	<b>5.0</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.9</b>	0.33		-	<b>2.9</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.7</b>	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		<b>3.0</b>	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		<b>3.0</b>	0.25		-	
3	交通負荷抑制		<b>3.0</b>	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		<b>2.0</b>	0.25		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33		-	<b>3.0</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	騒音		<b>3.0</b>	0.33		-	
2	振動		<b>3.0</b>	0.33		-	
3	悪臭		<b>3.0</b>	0.33		-	
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	風害の抑制		<b>3.0</b>	0.70		-	
2	砂塵の抑制		<b>3.0</b>	-		-	
3	日照障害の抑制		<b>3.0</b>	0.30		-	
3.3 光害の抑制			<b>3.0</b>	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		<b>3.0</b>	0.70		-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		<b>3.0</b>	0.30		-	